

# 【 梅雨前線豪雨状況 】

(平成22年7月15日木曜日)

この日は、記録的大雨が降った。その状況を時系列を追って紹介する。

さらに、地域の人々が大雨に対してどのように行動したのかや、行政関係者や地区役員の動きなどを含めて紹介することにより今後の防災意識への一助になることを期待したい。

この日は、朝から晴れたり曇ったりで梅雨末期の気配のする蒸し暑い日で、区の行事としてバロー南の根本川沿いで「精霊送り」の準備が行われており、その現場を中心に記録をひも解いてみる。

午後5時頃から北の空（可児市の方向）が真っ黒になってきた。

17:08 多治見市に大雨警報(土砂災害)が発令さる。

- ・JR太多線は小泉駅で下り線の運転を見合わせる。
- ・可児方面では、この時点で大雨が降っていた模様。

17:30頃 稲光と共に大粒の雨が急激に降り出す。

18:30 多治見市防災課からの情報

増水の通報や床下浸水の通報が川北(幸町、大原、根本、小泉、松坂、赤坂、小名田、国道248号沿い太平町)から続々入る。

小名田町アルマータ付近土砂崩れ

18:47 多治見市消防分団全分団召集

18:50 多治見市に土砂災害警戒情報発表

18:55 市長の指示により災害対策本部設置

幸町1丁目旧小泉タイヤ付近大原川沿い道路崩落、通行止め。

19:03 多治見市に大雨(土砂災害、浸水害)洪水警報発令。

19:05 公民館待機要請が出される。

19:00 周辺が停電となる。

19:10 小中学校待機要請が出される。

・この時間帯、観測史上最大となる激しい雨(時間雨量83.5ミリ)を記録。

・対策本部に、通行止め、冠水(床下、床上、道路)連絡相次ぐ。

・道路側溝(バロー駐車場横)の鉄製の蓋が水圧でガバガバと持ち上がる状況。

・区長の要請で消防の根本分団が災害予防の巡視活動に入る。

・姫地区から根本分団へ出動要請があったようだが、それどころではなかった

- ・松坂町2～5丁目の旧多治見白川線は、西側の山からの雨と、東側の団地の雨を受けて急流のごとし。

- ・248バイパスの下を東西に通る中央道路も歩道と車道の区別がつかないくらいの状態。あちこちで区内の床下浸水の情報も入ってくる

- ・根本川上流では、川底をゴロゴロと石が流れる音がしており「恐ろしいくらい」

- ・根本川(キリスト教会上流付近から)が氾濫。消防団が土嚢で応急措置。

- ・コンビニ(デイリーヤマザキ)も西側の水路があふれ浸水、そのまま店を閉めた。

19:40 頃 「根本駅」前は1mの冠水状態の情報も入ってきた。

19:55 市長の指示により、根本町、高根町を対象に、避難先を根本小学校、根本公民館として避難勧告を発令。(防災行政無線、FMピピ、マスコミFAX、テレビテロップにて)

- ・防災行政無線は、雨音で聞き取ることができなかった。

20:00 根本町、高根町へ市の広報車出発。

- ・「公民館もしくは小学校に避難してください」と告げている。しかし、この雨では実際の避難は無理であり、かえって危険も伴う。

- ・高根の町内会長、「避難勧告が出とるけど、どうしたらいいか」の問い合わせあり。22区の判断「こんな状態で避難するより家にいた方が安全」

20:00 過ぎ 急に雨脚が細くなり、冠水していたところも水が引きだした。

20:35 根本駅付近冠水收拾。

- ・「FMピピ」の災害及び気象情報は、まだ、「根本駅前は、1mの水が浸かっている、根本、高根地区に避難勧告が出ている」と報じている。

21:00 頃 根本公民館に出向くと避難所はそのまま開いていた。(翌朝6時20分まで大雨警報が解除にならなかったため)。

- ・太多線も数カ所で道床が流され、完全復旧したのは2日後の17日始発からだった。

- ・可児の洪水によるトラック横転と八百津の土砂崩れの全国ニュースは、その凄さを認識するのに十分だった。

- ・八百津の大災害を他山の石として今後の防災意識の向上につながる事が望まれる。

- ・あまりにも短時間での豪雨であり、この地区の人たちでも名古屋の会社に勤めていた人は実感がなかったかもしれない。

18:00～19:00に「80.5mm/h」の記録をピークに17:00～20:00では「136mm」の未曾有の豪雨であった。